

1. 実施大学、科目及び制作・放送

昭和62年度の放送利用の大学公開講座（放送公開講座）について、実施大学、科目別に、放送メディアの種類、主任講師、放送局、放送曜日、放送時間、放送期間を、表1に示してある。

昭和62年度の放送利用の大学公開講座は、北海道大学、東北大学、新潟大学、金沢大学、名古屋大学、大阪大学、広島大学、熊本大学、信州大学、高知医科大学（四国地区）、琉球大学（沖縄地区）の11大学を実施大学として実施された。

これらのうち、北海道大学、東北大学、新潟大学、金沢大学、名古屋大学、大阪大学、広島大学、熊本大学で実施された講座については、「一般分」として「大学の教育研究の成果の一般社会への開放」を主たる目的とし、信州大学、高知医科大学（四国地区）、琉球大学（沖縄地区）で実施された講座については、「大学群分」として「地域の複数の大学・学部が共同で企画、実施し、相互に授業への活用を図ること」を目的として実施された。

なお、「大学群分」のうち、高知医科大学（四国地区）の講座については、「四国地区国立大学放送公開講座」として、四国地区の7国立大学（徳島大学、鳴門教育大学、香川大学、香川医科大学、愛媛大学、高知大学、高知医科大学）が共同して企画し、四国4県で実施した。この、四国地区の講座は昨年度より開始されたもので、昨年度は高知大学を実施大学として、高知、愛媛の2県で実施された。また、昭和63年度については、愛媛大学を実施大学として、四国4県で実施されている。

放送メディア別の科目数は、テレビ11科目、ラジオ10科目、合計21科目で、テレビ科目は実施大学全部で、またラジオ科目は高知医科大学を除く全大学で、それぞれ1科目ずつ実施された。

放送局については、テレビ番組の制作・放送を行った局は北海道放送、東北放送、新潟放送、北陸放送、名古屋テレビ放送、毎日放送、中国放送、熊本放送、信越放送、高知放送、沖縄テレビ放送の11局であり、南海放送、西日本放送、四国放送は高知放送制作の番組の放送を実施した。ラジオ番組の制作・放送を行った局は、北海道放送、東北放送、新潟放送、北陸放送、東海ラジオ放送、近畿放送、中国放送、熊本放送、信越放送、琉球放送の10局であった。

放送曜日については、熊本大学のテレビ講座の金曜日を除き、すべて土曜日または日曜日に放送された。放送時間については、放送開始時刻が5時台が2局、6時台が4局、7時台が5局、9時台が1局、10時台が2局、19時台が2局（1局は一部の放送は20時台）が、20時台が2局、21時台が5局、23時台が1局で、午前は7時台に、午後は21時台に放送された講座が最も多い。

放送期間については、最も早い講座が熊本大学のテレビ講座で昭和62年9月4日から同年11月27日まで、最も遅い講座が信州大学のラジオ講座で昭和62年12月6日から昭和63年3月6日に実施されたが、その他の講座は昭和62年の10月から昭和63年の1月にかけて実施された。

表1 昭和62年度放送利用の大学公開講座実施大学・科目等一覧

(1) 一般分

実施大学	種類	科 目	主 任 講 師
北海道大学	T V	文化としての北 —北海道の「地方性」を問う—	言語文化部教授 本田錦一郎
	R	中国の古典を読む	文学部助教授 丸尾 常喜
東北大学	T V	結晶：その生いたちと個性 —生物から無生物まで—	理学部教授 砂川 一郎
	R	経済大国日本の虚像と実像	経済学部教授 吉田震太郎
新潟大学	T V	変動する地球 —日本列島の成り立ちとその背景—	積雪地域災害研究センター教授 藤田 至則
	R	現代青年のライフスタイル	教養部教授 石田 幸平
金沢大学	T V	大地と人間 —土木工学のロマン—	工学部教授 小堀 為雄
	R	北陸の風土	文学部教授 金崎 肇
名古屋大学	T V	ミクロの科学と人間生活	法学部教授 森島 昭夫
	R	転換期の教育を考える	教育学部教授 堀内 守
大阪大学	T V	自然のしくみ —化学の眼—	理学部教授 菅 宏
	R	日本研究の先達	文学部教授 子安 宣邦
広島大学	T V	日本の建築空間	工学部教授 鈴木 充
	R	性を考える	学校教育学部助教授 若尾 裕
熊本大学	T V	台所の科学	教育学部教授 有富 正和
	R	くらしの中の法	法学部教授 清正 寛

(2) 大学群分

実施大学	種類	科 目	主 任 講 師
信州大学	T V	農業新戦略 —夢のある明日の農林業をめざして—	農学部教授 菅原 聡
			” 細野 明義
	R	近代信州の女性たち —歴史・文学・芸術にさぐる—	教養部教授 上條 宏之
高知医科大学 (四国地区)	T V	健やかな老後をめざして —高齢化社会への対応—	医学部教授 小澤 利男
			” 池田 久男
			” 山本 博司
			” 大原 啓志
琉球大学 (沖縄地区)	T V	沖縄の医療と保健	医学部教授 平山 清武
	R	沖縄の戦後史	法文学部教授 大田 昌秀

放 送 局	放送曜日	放 送 時 間	放 送 期 間	備 考
北海道放送	日	23:40～ 0:25	10月 4日～12月27日	
	日	20:00～20:45	10月18日～ 1月10日	
東北放送	土	7:00～ 7:45	10月 3日～12月26日	
	日	19:00～19:45	10月18日～12月20日	
	土	20:00～20:45	12月 5日～12月19日	
新潟放送	土	7:00～ 7:45	10月 3日～12月26日	
	日	21:00～21:45	10月18日～ 1月10日	
北陸放送	土	5:45～ 6:30	10月 3日～12月26日	※1/2は休み
	土	21:00～21:45	10月17日～ 1月16日※	
名古屋テレビ放送	土	7:00～ 7:45	10月 3日～12月26日	
東海ラジオ放送	土	6:00～ 6:45	10月 3日～12月26日	
毎日放送	日	5:45～ 6:30	10月 4日～12月27日	
近畿放送	日	21:00～21:45	10月18日～ 1月10日	
中国放送	土	7:00～ 7:45	10月 3日～12月26日	※1/3は休み
	日	20:00～20:45	10月25日～ 1月24日※	
熊本放送	金	9:30～10:15	9月 4日～11月27日	※1/3は休み
	日	21:45～22:30	10月18日～ 1月17日※	

放 送 局	放送曜日	放 送 時 間	放 送 期 間	備 考
信越放送	土	10:00～10:45	10月 3日～12月26日 月	※1/3は休み
	日	19:15～20:00	12月 6日～ 3月 6日※	
高知放送	土	7:00～ 7:45	10月 3日～12月26日	
南海放送	土	10:00～10:45	10月 3日～12月26日	
西日本放送	日	6:00～ 6:45	10月 4日～12月27日	
四国放送	土	6:00～ 6:45	10月 3日～12月26日	
沖縄テレビ放送	土	6:15～ 7:00	10月 3日～12月26日	
琉球放送	日	21:15～22:00	10月 4日～12月27日	

2. 実 施 体 制

昭和62年度の放送利用の大学公開講座の、各大学ごとの実施体制について、表2に示してある。

放送利用の大学公開講座の各大学における実施のための組織形態は多様であるが、概ね①放送利用の大学講座のために独自の全学的な委員会を設置し実施しているもの（北海道大学、新潟大学、広島大学、熊本大学、高知医科大学（四国地区）の5大学）、②特に本講座だけの全学的な組織を設けず、一般の公開講座を実施する全学的な委員会の中に本講座の実施のための専門的な委員会を置く等により実施しているもの（名古屋大学、大阪大学、琉球大学（沖縄地区）の3大学）、③大学教育開放のためのセンターがあり、その中に専門的な委員会を置く等により実施しているもの（東北大学、金沢大学の2大学）、④特に委員会等を設けず実施しているもの（信州大学）の4種類に分類できる。

なお、高知医科大学（四国地区）の実施体制については、高知医科大学内に放送公開講座実施のための全学的委員会として「高知医科大学放送公開講座実施委員会」が置かれているが、さらに四国地区における放送公開講座が円滑に実施できるようにするため、各大学が協力することを目的として、四国地区国立大学長会議のもとに「四国地区国立大学放送公開講座検討委員会」が置かれている。

また、事務担当部局についても多様で、①学生部の担当するもの（名古屋大学、広島大学、熊本大学、信州大学、琉球大学の5大学）、②庶務部（総務部）の担当するもの（北海道大学、新潟大学、大阪大学、高知医科大学の4大学）、③大学教育開放センターの担当するもの（東北大学、金沢大学の2大学）の3種類に分類できる。さらに、学生部内の担当課については学生課3大学、入試課1大学、教務課1大学と多様であるが、庶務部（総務部）内の担当課は4大学とも庶務課になっている。

なお、各大学で実施されている放送公開講座以外の公開講座の状況についても参考までに掲載してある。

表2 実施体制

大 学 名	実施委員会等	実施専門委員会等	実施規則等	担 当 部 局	他の公開講座の実施状況
北海道大学	放送教育委員会	放送教育委員会 テレビ講座専門委員会 ラジオ講座専門委員会	放送教育委員会要項	庶務部庶務課 大学公開掛 3人	公 開 講 座 7 1 講座 6～13回 (1回当たり2～3時間)
東北大学	教育学部附属大学 教育開放センター	講座実施委員会 総務委員会 テキスト委員会 スクーリング委員会 理解度調査委員会	昭和62年度放送による 東北大学開放講座実施 要綱	教 育 学 部 附属大学教育 開放センター 4人 事務担当 6人	主 催 事 業 10 共 催 事 業 12 受 託 事 業 2
新潟大学	放送公開講座実施 委員会	放送公開講座実施委員会 テレビ講座専門部会 ラジオ講座専門部会 テキスト作成専門部会 調査・指導専門部会 企画専門部会	新潟大学公開講座規程 新潟大学放送公開講座 実施委員会規程	庶務部庶務課 企画調査係 4人	公 開 講 座 4 1 講座 3～10回 (1回当たり2～5時間)
金沢大学	大学教育開放セン ター（全学共同）	大学教育開放センター運営委員会 放送講座小委員会	金沢大学大学教育開放 センター規則	大学教育開放 センター 5人	長期講座（前・後期） 6 短期集中講座 2 夏期大学講座18市町村 各1～4 社会教育主事講習
名古屋大学	公開講座委員会	公開講座委員会 テレビ放送公開講座専門委員会 公開講座小委員会	公開講座委員会規程	学生部入試課 教務掛 2人	公 開 講 座 5 1 講座 2～15回 (1回当たり2～6時間)
大阪大学	開放講座運営委員 会	同 左	開放講座運営委員会規 程	庶務部庶務課 学術掛 4人	開 放 講 座 1 1 講座 14回 (1回当たり2.5時間)

大 学 名	実施委員会等	実施専門委員会等	実施規則等	担 当 部 局	他の公開講座の実施状況
広島大学	放送教育実施委員会	同 専門委員会	放送教育実施委員会要項	学生部教務課 教務係 4人	公 開 講 座 4 1 講座 10回 (1回当たり2時間)
熊本大学	放送公開講座実施委員会	放送公開講座実施委員会 実施専門委員会 企画専門委員会 調査研究専門委員会	放送公開講座実施委員会要項	学生部学生課 教務係 5人	公 開 講 座 18 1 講座 3～10回 (1回当たり2～7時間)
信州大学	_____	_____	_____	学生部学生課 教務係 2人	公 開 講 座 9 1 講座 4～10回 (1回当たり2～7.5時間)
高知医科大学 (四国地区)	四国地区国立大学 学長会議 四国地区国立大学放送公開講座 検討委員会 高知医科大学放送公開講座実施 委員会	高知医科大学放送公開講座 実施委員会 番組制作部会 テキスト作成部会 調査・指導部会	四国地区国立大学放送 公開講座申し合せ事項	総務部庶務課 調査係 3人	_____
琉球大学 (沖縄地区)	公開講座委員会	公開講座委員会 実施専門委員会	公開講座委員会規則	学生部学生課 教務係 3人	公 開 講 座 22 1 講座 2～11回 (1回当たり2～9時間)

3. 学習指導等の実施状況

昭和62年度の放送利用の大学公開講座の、各実施大学・実施科目ごとの学習指導等の実施状況について、「教材費」、「面接指導回数」、「面接指導時間」、「再視聴施設利用日時等」、「大学図書館の利用」の各状況を表3に示してある。また、表中の「学歴条件」は、実施講座への応募の目安であり、これによって受講生としての登録が左右されるものではない。

面接指導（スクーリング）の回数については、1会場当りのスクーリング実施回数について示してある。これらの回数のうち、新潟大学と信州大学を除く回数は同一会場における延べ回数であり、新潟大学と信州大学の回数については異なる会場における延べ回数である。

各実施大学ごとのスクーリング各回の会場数は、北海道大学がテレビ講座、ラジオ講座とも6会場（札幌市、旭川市、函館市、帯広市、留萌市、北見市）、東北大学がテレビ講座、ラジオ講座とも1会場（仙台市）、新潟大学がテレビ講座、ラジオ講座とも会場1（新潟市他）、金沢大学がテレビ講座、ラジオ講座とも1会場（金沢市）、名古屋大学がテレビ講座、ラジオ講座とも1会場（名古屋市）、大阪大学がテレビ講座、ラジオ講座とも1会場（豊中市）、広島大学がテレビ講座、ラジオ講座とも2会場（広島市、福山市）、熊本大学がテレビ講座、ラジオ講座とも5会場（テレビ講座については、小川町、玉東町、鹿央町、人吉市、熊本市。ラジオ講座については、西合志町、一の宮町、八代市、五和町、熊本市）、信州大学がテレビ講座、ラジオ講座とも1会場（長野市他）、高知医科大学（四国地区）がテレビ講座のみで5会場（高知市、中村市、松山市、高松市、徳島市）、琉球大学がテレビ講座、ラジオ講座とも3会場（那覇市、平良市、石垣市）であった。

なお、スクーリング等の学習指導については、表に記載した以外に市の教育委員会の協力による学習センターにおける学習指導（北海道大学）等、多様な指導体制を持つ大学がある。詳しくは、各大学の実施報告を参照されたい。

表3 学習指導等の実施状況

大学名	科 目 名	媒 体	曜 日	時 間	受 講 生 数 (人)	教 材 費 (円)	面 接 指 導 (回)	面 接 指 導 時 間 (1回当たり) (時間)	再 視 聴 施 設 利 用 日 時 等		大学図書館利用	学 歴 条 件
北海道大学	文化としての北 — 北海道の「地方性」 を問う—	テレビ	日	23:40～ 0:25	412	1,050	2～3	2～2.5	(学内) 10月7日～1月6日 毎週水曜日 13:00～19:00	(学外) 10月7日～1月11日 実施日及び時間につ いては各学習センタ ーで設置	月～日 (閲覧のみ)	高卒程度 の学力を 有する者
	中国の古典を読む	ラジオ	日	20:00～20:45	491	1,300	2～3	2～2.5	(学内) 10月19日～1月11日 毎週月曜日 13:00～19:00			
東北大学	結晶：その生いたちと個性 — 生物から 無生物まで—	テレビ	土	7:00～ 7:45	108	2,500	4	2	(学内) 10月17日～12月26日 毎週土曜日 (11回) 13:00～17:00	(学外) 10月17日～3月31日 毎日 (月曜を除く) 8:30～16:00	な し	高卒又は これに 準ずる者
	経済大国日本の虚像と実像	ラジオ	日	19:00～19:45	220	1,800	4	2				
新潟大学	変動する地球 — 日本列島の成り立ちと その背景 —	テレビ	土	7:00～ 7:45	266	2,200	4	2	(学内) 10月5日～1月11日 毎週月曜日 13:00～15:00	(学外) 11月8日(日) 10:30～16:15 12月20日(日) 10:30～16:45	な し	な し
	現代青年のライフスタイル	ラジオ	日	21:00～21:45	139	1,500	4	2	(学内) 10月19日～1月11日 毎週日曜日 13:00～15:00			
金沢大学	大地と人間 — 土木工学のロマン—	テレビ	土	5:45～ 6:30	60	2,200	3	2～2.5	(学内) 10月5日～1月16日 月曜日～土曜日 10:00～17:00 (但し土曜日は12:00まで)		な し	な し
	北陸の風土	ラジオ	土	21:00～21:45	28	1,500	3	2～2.5				
名古屋大学	ミクロの科学と人間生活	テレビ	土	7:00～ 7:45	212	1,000	4	2	(学内) 10月31日(日) 9:00～12:00 11月28日(日) 9:00～12:00 1月9日(日) 9:00～12:45		な し	高卒程度 の学力を 有する者
	転換期の教育を考える	ラジオ	土	6:00～ 6:45	198	1,000	3	2	(学内) 11月21日(日) 9:00～14:15 12月26日(日) 9:00～13:30			
大阪大学	自然のしくみ — 化学の眼 —	テレビ	日	5:45～ 6:30	700	1,500	1	3	(学内) 10月17日～12月26日 毎週土曜日 10:00～12:00 10月9日(日)、1月5日(日)、1月8日(日)、 1月14日(日) 10:00～16:00		な し	高卒程度 の学力を 有する者
	日本研究の先達	ラジオ	日	21:00～21:45	458	1,450	1	2				

大学名	科目名	媒体	曜日	時間	受講生数 (人)	教材費 (円)	面接指導 (回)	面接指導時間 (1回当たり) (時間)	再視聴施設利用日時等	大学図書館利用	学歴条件
広島大学	日本の建築空間	テレビ	土	7:00～7:45	174	600	3	2	(学内) 11月29日(日) 10:30～12:45 12月13日(日) 10:30～14:15 1月10日(日) 10:30～14:15	月～土	なし
	性を考える	ラジオ	日	20:00～20:45	177	700	3	2	(学内) 11月2日～1月30日 日曜、祝日を除き 10:00～16:00 (但し、土曜日は9:30～11:30)		
熊本大学	台所の科学	テレビ	金	9:30～10:15	616	620	2～4	2	9月11日～12月24日及び 1月5日～1月20日 毎週月曜日～土曜日 9:00～17:00 (但し、土曜日は9:00～12:00)	なし	なし
	くらしの中の法	ラジオ	日	21:45～22:30	569	540	2～4	2			
信州大学	農業新戦略 —夢のある明日の 農林業をめざして—	テレビ	土	10:00～10:45	3,001	1,520	7	25～4	(学内) 長野市(工学部)、 上田市(繊維学部)、 松本市(教育学部)、 10月6日～1月5日 毎週火曜日 10:00～12:00	なし	高卒程度 の学力を 有する者
	近代信州の女性たち —歴史・文学・ 芸術にさぐる—	ラジオ	日	19:15～20:00	533	1,440	5	3	(学内) 松本市(教養部)、長野市(教育学部)、 伊那市(農学部)、上田市(繊維学部) 12月4日～2月25日 毎週金曜日 14:00～16:00		
高知医科大学(四国地区)	健やかな老後をめざして —高齢化社会への対応—	テレビ	高知 土	7:00～7:45	441	2,000	2	2	11月1日(日) 13:00～16:15 12月6日(日) 13:00～16:15 1月10日(日) 13:00～17:05	なし	高卒程度 の学力を 有する者
			愛媛 土	10:00～10:45	135		1	3	11月1日(日) 13:00～16:15 11月29日(日) 13:00～16:15 1月10日(日) 13:00～17:05		
			香川 日	6:00～6:45	97		1	3	11月1日(日) 13:00～16:15 11月29日(日) 13:00～16:15 1月10日(日) 13:00～17:05		
			徳島 土	6:00～6:45	198		1	3	11月1日(日) 13:00～16:15 11月29日(日) 13:00～16:15 1月10日(日) 13:00～17:05		
琉球大学(沖縄地区)	沖縄の医療と保健	テレビ	沖縄 本島 土 宮古 日 八重山 日	6:15～7:00 18:00～18:45 18:00～18:45	158	1,800	3	2	沖縄本島、宮古、八重山 11月9日(月) 15:00～16:45 1月10日(日) 9:00～16:45	なし	高卒程度 の学力を 有する者
	沖縄の戦後史	ラジオ	日	21:15～22:00	79	1,600	3	2	沖縄本島、宮古、八重山 11月15日(日) 10:00～16:45 1月10日(日) 9:00～16:45		

(注) 琉球大学(沖縄地区)の宮古、八重山でのテレビ科目の放送はCATV局を利用。

4. 受講生の応募状況及び属性

表4は、受講生の応募状況を示している。各講座では募集段階で受講生定員を設定しているが、この定員はいわば受講生募集の目標値であり、応募者がその枠を越えても全員を受講生として受け入れている。昭和62年度における受講生については、総定員 5,650 人に対して 9,470 人の応募があり、応募者全員が受講生として登録された。前年度に比べ、ラジオ講座の増加（信州大学、琉球大学）、テレビ放送地域の拡大等による変更（四国地区）による定員増が 700 人あったが、応募者の増はこれを上回る 1,957 人であった。

講座ごとの応募者数については、信州大学のテレビ講座が 3,001 人で最も多く、各講座の平均は 451 人であった。

表5-1、表5-2、表5-3は受講生の属性について、それぞれ性別及び年齢別、職業別、学歴を示している。

表5-1に示したように、受講生のうち、4,956 人が男性で、4,514 人が女性であり、比率にすると男性 52.3 %、女性 47.3 %で、ほぼ半々である。しかし、講座ごとにみると性別比率は多様である。男性比率が最も高く、従って女性比率が最も低いのが金沢大学のテレビ講座で、男性93.3%、女性 6.7 %であり、逆に男性比率が最も低く、女性比率が最も高いのが信州大学のラジオ講座で、男性 4.1 %、女性95.9%となっている。こうした比率の違いには色々な理由が考えられるが、金沢大学の講座が土木工学をテーマにした講座であり、信州大学の講座が女性そのものをテーマにした講座であることから知れるように、講座のテーマが深く関わっていると考えられる。

なお、昭和62年度実施科目のテーマの傾向については、「歴史・文化」及び「環境・自然」分野がともに5科目で最も多く開講され、次に「法律・経済」、「社会・生活」、「発達・教育」、「工学・工芸」分野がそれぞれ2科目、「文学・言語」、「健康・医療」、「農業」分野がそれぞれ1科目実施された。

このうち、テレビ科目では、「環境・自然」分野が4科目で最も多く開講され、また「健康・医療」、「工学・工芸」分野がそれぞれ2科目、「歴史・文化」、「社会・生活」、「農業」分野がそれぞれ1科目開講された。また、ラジオ科目では、「歴史・文化」分野が4科目で最も多く開講され、「歴史・文化」、「発達・教育」分野がそれぞれ2科目、「文学・言語」、「社会・生活」分野がそれぞれ1科目開講された。

このように、各講座の受講生の性別比率は多様であっても、講座全体のテーマの構成は各分野にわたっているため、講座全体としては性別上均衡の取れた展開になっていると考えられる。

表5-1には年齢別の受講者数も示してあるが、これによると講座全体では、20歳未満の者が2.5 %、20歳代12.2%、30歳代20.1 %、40歳代20.3%、50歳代20.7%、60歳以上の者が21.7 %、不明 2.5 %となっている。

どの講座も、各年齢段階の受講生が登録しているが、講座ごとにその分布は多様である。また、60歳以上の受講生の比率の最も高いのが老人医療をテーマにした高知医科大学のテレビ講

座（37.4％）であるように、ここでもテーマが受講生の属性に影響を与えていると考えられる。

表5－2に示されたように、受講生の職業もまた多様である。分類の異なる熊本大学を除く全大学の受講生の職業構成は、「会社員」16.3％、「公務員」18.6％、「教員」6.7％、「主婦」17.2％、「学生」4.4％、「自営業」13.0％、「無職」10.7％、「その他」13.1％となっており、各種の職業の受講生が登録していることがわかる。

表5－3に示されたように、受講生の学歴も多様である。受講生全体の学歴構成は「小学校卒」と「中学校・旧制高小卒」の合計が5.3％、「高校・旧制中学卒」37.8％、「短大・高専卒」12.5％、「大学・旧制高専卒」28.5％、「大学・短大・高専在学中」4.5％、「その他」11.4％となっており、多様な学歴の受講生が登録していることがわかる。

表4 応募状況

大学名	テレビ ラジオ の 別	科 目 名	定 員 A	応 募 者 B
北海道大学	テレビ	文化としての北 ー北海道の「地方性」を問うー	6 0 0 人	4 1 2 人
	ラジオ	中国の古典を読む	5 0 0	4 9 1
	小 計		1,1 0 0	9 0 3
東北大学	テレビ	結晶：その生いたちと個性 ー生物から無生物までー	1 0 0	1 0 8
	ラジオ	経済大国日本の虚像と実像	1 0 0	2 2 0
	小 計		2 0 0	3 2 8
新潟大学	テレビ	変動する地球 ー日本列島の成り立ちとその背景ー	1 0 0	2 6 6
	ラジオ	現代青年のライフスタイル	1 0 0	1 3 9
	小 計		2 0 0	4 0 5
金沢大学	テレビ	大地と人間 ー土木工学のロマンー	1 0 0	6 0
	ラジオ	北陸の風土	1 0 0	2 8
	小 計		2 0 0	8 8
名古屋大学	テレビ	ミクロの科学と人間生活	2 0 0	2 1 2
	ラジオ	転換期の教育を考える	2 0 0	1 9 8
	小 計		4 0 0	4 1 0
大阪大学	テレビ	自然のしくみ ー化学の眼ー	3 0 0	7 0 0
	ラジオ	日本研究の先達	3 0 0	4 5 8
	小 計		6 0 0	1,1 5 8
広島大学	テレビ	日本の建築空間	1 5 0	1 7 4
	ラジオ	性を考える	1 5 0	1 7 7
	小 計		3 0 0	3 5 1
熊本大学	テレビ	台所の科学	5 0 0	6 1 6
	ラジオ	くらしの中の法	5 0 0	5 6 9
	小 計		1,0 0 0	1,1 8 5
信州大学	テレビ	農業新戦略 ー夢のある明日の農林業をめざしてー	5 0 0	3,0 0 1
	ラジオ	近代信州の女性たち ー歴史・文学・芸術にさぐるー	3 0 0	5 3 3
	小 計		8 0 0	3,5 3 4
高知医科大学 (四国地区)	テレビ	健やかな老後をめざして ー高齢化社会への対応ー	6 0 0 高知 3 0 0 愛媛 1 0 0 香川 1 0 0 徳島 1 0 0	8 7 1 4 4 1 1 3 5 9 7 1 9 8
琉球大学 (沖縄地区)	テレビ	沖縄の医療と保健	1 5 0	1 5 8
	ラジオ	沖縄の戦後史	1 0 0	7 9
	小 計		2 5 0	2 3 7
計			5,6 5 0	9,4 7 0

表5-1 受講生の性別及び年齢

大学名	科 目 名	男 女 別			年 齢 別							
		男	女	計	20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上	不明	計
北海道大学	文化としての北 —北海道の「地方性」を問う—	247 (53.1)	165 (46.9)	412 (100.0)	1 (0.3)	43 (10.4)	92 (22.3)	96 (23.3)	94 (22.8)	82 (19.9)	4 (1.0)	412 (100.0)
	中国の古典を読む	237 (48.3)	254 (51.7)	491 (100.0)	2 (0.4)	45 (9.1)	112 (22.8)	103 (21.0)	124 (25.3)	101 (20.6)	4 (0.8)	491 (100.0)
	小 計	484 (53.6)	419 (46.4)	903 (100.0)	3 (0.3)	88 (9.7)	204 (22.6)	199 (22.0)	218 (24.2)	183 (20.3)	8 (0.9)	903 (100.0)
東北大学	結晶：その生いたちと個性 —生物から無生物まで—	64 (59.3)	44 (40.7)	108 (100.0)	2 (1.9)	16 (14.8)	21 (19.4)	24 (22.2)	16 (14.8)	29 (26.9)	0 (0.0)	108 (100.0)
	経済大国日本の虚像と実像	141 (64.1)	79 (35.9)	220 (100.0)	1 (0.5)	21 (9.5)	38 (17.3)	49 (22.3)	41 (18.6)	70 (31.8)	0 (0.0)	220 (100.0)
	小 計	205 (62.5)	123 (37.5)	328 (100.0)	3 (0.9)	37 (11.3)	59 (18.0)	73 (22.3)	57 (17.4)	99 (30.1)	0 (0.0)	328 (100.0)
新潟大学	変動する地球 —日本列島の成り立ちとその背景—	195 (73.3)	71 (26.7)	266 (100.0)	2 (0.8)	28 (10.5)	64 (24.1)	68 (25.5)	54 (20.3)	46 (17.3)	4 (1.5)	266 (100.0)
	現代青年のライフスタイル	69 (49.6)	70 (50.4)	139 (100.0)	2 (1.4)	21 (15.1)	34 (24.5)	33 (23.8)	27 (19.4)	17 (12.2)	5 (3.6)	139 (100.0)
	小 計	264 (65.2)	141 (34.8)	405 (100.0)	4 (1.0)	49 (12.1)	98 (24.2)	101 (24.9)	81 (20.0)	63 (15.6)	9 (2.2)	405 (100.0)
金沢大学	大地と人間 —土木工学のロマン—	56 (93.3)	4 (6.7)	60 (100.0)	0 (0.0)	13 (21.7)	19 (31.6)	10 (16.7)	5 (8.3)	10 (16.7)	3 (5.0)	60 (100.0)
	北陸の風土	24 (85.7)	4 (14.3)	28 (100.0)	0 (0.0)	7 (25.0)	4 (14.3)	7 (25.0)	2 (7.1)	8 (28.6)	0 (0.0)	28 (100.0)
	小 計	80 (90.9)	8 (9.1)	88 (100.0)	0 (0.0)	20 (22.7)	23 (26.0)	17 (19.3)	7 (8.0)	18 (20.5)	3 (3.5)	88 (100.0)
名古屋大学	ミクロの科学と人間生活	125 (59.0)	87 (41.0)	212 (100.0)	3 (1.4)	23 (10.9)	39 (18.4)	51 (24.1)	51 (24.1)	44 (20.8)	1 (0.5)	212 (100.0)
	転換期の教育を考える	84 (42.4)	114 (57.6)	198 (100.0)	4 (2.0)	15 (7.6)	61 (30.8)	52 (26.3)	32 (16.2)	32 (16.2)	2 (1.0)	198 (100.0)
	小 計	209 (51.0)	201 (49.0)	410 (100.0)	7 (1.7)	38 (9.3)	100 (24.4)	103 (25.1)	83 (20.2)	76 (18.5)	3 (0.7)	410 (100.0)
大阪大学	自然のしくみ —化学の眼—	516 (73.7)	184 (26.3)	700 (100.0)	22 (3.1)	76 (10.9)	160 (22.9)	170 (24.2)	144 (20.6)	128 (18.3)	0 (0.0)	700 (100.0)
	日本研究の先達	289 (63.1)	169 (36.9)	458 (100.0)	10 (2.2)	39 (8.5)	93 (20.3)	119 (26.0)	89 (19.4)	108 (23.6)	0 (0.0)	458 (100.0)
	小 計	805 (69.5)	353 (30.5)	1,158 (100.0)	32 (2.8)	115 (9.9)	253 (21.8)	289 (25.0)	233 (20.1)	236 (20.4)	0 (0.0)	1,158 (100.0)
広島大学	日本の建築空間	122 (70.1)	52 (29.9)	174 (100.0)	3 (1.7)	22 (12.6)	46 (26.4)	36 (20.7)	25 (14.4)	40 (23.0)	2 (1.2)	174 (100.0)
	性を考える	61 (34.5)	116 (65.5)	177 (100.0)	1 (0.6)	26 (14.7)	47 (26.6)	45 (25.4)	23 (13.0)	30 (16.9)	5 (2.8)	177 (100.0)
	小 計	183 (52.1)	168 (47.9)	351 (100.0)	4 (1.1)	48 (13.7)	93 (26.5)	81 (23.1)	48 (13.7)	70 (19.9)	7 (2.0)	351 (100.0)
熊本大学	台所の科学	82 (13.3)	534 (86.7)	616 (100.0)	0 (0.0)	27 (4.4)	110 (17.8)	130 (21.1)	160 (26.0)	176 (28.6)	13 (2.1)	616 (100.0)
	くらしの中の法	216 (38.0)	353 (62.0)	569 (100.0)	1 (0.2)	36 (6.3)	106 (18.6)	113 (19.9)	96 (16.9)	190 (33.4)	27 (4.7)	569 (100.0)
	小 計	298 (25.1)	887 (74.9)	1,185 (100.0)	1 (0.1)	63 (5.3)	216 (18.2)	243 (20.5)	256 (21.6)	366 (30.9)	40 (3.4)	1,185 (100.0)
信州大学	農業新戦略 —夢のある明日の農林業をめざして—	2,023 (67.4)	978 (32.6)	3,001 (100.0)	171 (5.7)	571 (19.0)	541 (18.0)	456 (15.2)	598 (19.9)	513 (17.0)	151 (5.2)	3,001 (100.0)
	近代信州の女性たち —歴史・文学・芸術にさぐる—	22 (4.1)	511 (95.9)	533 (100.0)	4 (0.8)	39 (7.3)	110 (20.6)	142 (26.6)	144 (27.0)	86 (16.1)	8 (1.6)	533 (100.0)
	小 計	2,045 (57.9)	1,489 (42.1)	3,534 (100.0)	175 (5.0)	610 (17.3)	651 (18.4)	598 (16.9)	742 (21.0)	599 (16.9)	159 (4.5)	3,534 (100.0)
高知医科大学 (四国地区)	健やかな老後をめざして —高齢化社会への対応—	305 (35.0)	566 (65.0)	871 (100.0)	5 (0.6)	55 (6.3)	102 (11.7)	152 (17.5)	219 (25.1)	326 (37.4)	12 (1.4)	871 (100.0)
琉球大学 (沖縄地区)	沖縄の医療と保健	42 (26.6)	116 (73.4)	154 (100.0)	4 (2.5)	20 (12.7)	62 (39.9)	45 (28.5)	15 (9.5)	12 (7.6)	0 (0.0)	158 (100.0)
	沖縄の戦後史	36 (45.6)	43 (54.4)	79 (100.0)	2 (2.5)	9 (11.4)	39 (49.4)	18 (22.8)	7 (8.9)	4 (5.1)	0 (0.0)	79 (100.0)
	小 計	78 (32.9)	159 (67.1)	237 (100.0)	6 (2.5)	29 (12.2)	101 (42.6)	63 (26.6)	22 (9.3)	16 (6.8)	0 (0.0)	237 (100.0)
計		4,956 (62.3)	4,514 (47.7)	9,470 (100.0)	240 (2.5)	1,152 (12.2)	1,900 (20.1)	1,919 (20.3)	1,966 (20.7)	2,052 (21.7)	241 (2.5)	9,470 (100.0)

表5-2 受講生の職業

大学名	科 目 名	会 社 員	公 務 員	教 員	主 婦	学 生	自 営 業	無 職	そ の 他	計
北海道大学	文化としての北 —北海道の「地方性」を問う—	72 (17.5)	96 (23.3)	24 (5.8)	82 (19.9)	6 (1.4)	25 (6.1)	53 (12.9)	54 (13.1)	412 (100.0)
	中国の古典を読む	82 (16.7)	82 (16.7)	36 (7.3)	121 (24.7)	6 (1.2)	29 (5.9)	66 (13.4)	69 (14.1)	491 (100.0)
	小 計	154 (17.1)	178 (19.7)	60 (6.6)	203 (22.5)	12 (1.3)	54 (6.0)	119 (13.2)	123 (13.6)	903 (100.0)
東北大学	結晶：その生いたちと個性 —生物から無生物まで—	19 (17.6)	13 (12.0)	16 (14.8)	18 (16.7)	2 (1.9)	6 (5.6)	21 (19.4)	13 (12.0)	108 (100.0)
	経済大国日本の虚像と実像	52 (23.6)	38 (17.3)	25 (11.4)	39 (17.7)	1 (0.5)	17 (7.7)	32 (14.5)	16 (7.3)	220 (100.0)
	小 計	71 (21.6)	51 (15.5)	41 (12.5)	57 (17.4)	3 (0.9)	23 (7.0)	53 (16.3)	29 (8.8)	328 (100.0)
新潟大学	変動する地球 —日本列島の成り立ちとその背景—	72 (27.1)	44 (16.5)	46 (17.3)	31 (11.7)	4 (1.5)	16 (6.0)	34 (12.8)	19 (7.1)	266 (100.0)
	現代青年のライフスタイル	21 (15.1)	32 (23.0)	33 (23.7)	24 (17.3)	1 (0.7)	4 (2.9)	10 (7.2)	14 (10.1)	139 (100.0)
	小 計	93 (23.0)	76 (18.8)	79 (19.5)	55 (13.6)	5 (1.2)	20 (4.9)	44 (10.9)	33 (8.1)	405 (100.0)
金沢大学	大地と人間 —土木工学のロマン—	26 (43.4)	20 (33.3)	4 (6.7)	2 (3.3)	1 (1.7)	2 (3.3)	2 (3.3)	3 (5.0)	60 (100.0)
	北陸の風土	7 (25.0)	7 (25.0)	6 (21.5)	1 (3.6)	0 (0.0)	2 (7.1)	2 (7.1)	3 (10.7)	28 (100.0)
	小 計	33 (37.4)	27 (30.7)	10 (11.4)	3 (3.4)	1 (1.1)	4 (4.6)	4 (4.6)	6 (6.8)	88 (100.0)
名古屋大学	ミクロの科学と人間生活	61 (28.8)	24 (11.3)	10 (4.7)	49 (23.1)	8 (3.8)	17 (8.0)	27 (12.7)	16 (7.6)	212 (100.0)
	転換期の教育を考える	25 (12.6)	21 (10.6)	22 (11.1)	80 (40.4)	8 (4.0)	9 (4.6)	20 (10.1)	13 (6.6)	198 (100.0)
	小 計	86 (21.0)	45 (11.0)	32 (7.8)	129 (31.5)	16 (3.9)	26 (6.3)	47 (11.5)	29 (7.1)	410 (100.0)
大阪大学	自然のしくみ —化学の眼—	253 (36.1)	47 (6.7)	132 (18.9)	70 (10.0)	22 (3.2)	50 (7.1)	60 (8.6)	66 (9.4)	700 (100.0)
	日本研究の先達	133 (29.0)	44 (9.6)	34 (7.4)	74 (16.2)	12 (2.6)	42 (9.2)	63 (13.8)	56 (12.2)	458 (100.0)
	小 計	386 (33.3)	91 (7.9)	166 (14.3)	144 (12.5)	34 (2.9)	92 (8.0)	123 (10.6)	122 (10.5)	1,158 (100.0)
広島大学	日本の建築空間	35 (20.1)	31 (17.8)	18 (10.4)	23 (13.2)	8 (4.6)	17 (9.8)	20 (11.5)	22 (12.6)	174 (100.0)
	性を考える	18 (10.2)	29 (16.4)	37 (20.9)	43 (24.3)	3 (1.7)	13 (7.3)	15 (8.5)	19 (10.7)	177 (100.0)
	小 計	53 (15.1)	60 (17.1)	55 (15.7)	66 (18.8)	11 (3.1)	30 (8.5)	35 (10.5)	41 (11.7)	351 (100.0)
信州大学	農業新戦略 —夢のある明日の農林業をめざして—	304 (10.1)	642 (21.4)	66 (2.2)	320 (10.7)	257 (8.5)	693 (23.1)	261 (8.7)	458 (15.3)	3,001 (100.0)
	近代信州の女性たち —歴史・文学・芸術にさぐる—	58 (10.9)	80 (15.0)	9 (1.7)	272 (51.0)	6 (1.1)	32 (6.0)	29 (5.4)	47 (8.9)	533 (100.0)
	小 計	362 (10.3)	722 (20.4)	75 (2.1)	592 (16.8)	263 (7.4)	725 (20.5)	290 (8.2)	505 (14.3)	3,534 (100.0)
高知医科大学 (四国地区)	健やかな老後をめざして —高齢化社会への対応—	69 (7.9)	197 (22.6)	31 (3.6)	159 (18.3)	0 (0.0)	76 (8.7)	165 (18.9)	174 (20.0)	871 (100.0)
琉球大学 (沖縄地区)	沖縄の医療と保健	29 (18.4)	76 (48.1)	5 (3.2)	9 (5.7)	7 (4.4)	15 (9.5)	2 (1.3)	15 (9.5)	158 (100.0)
	沖縄の戦後史	16 (20.3)	20 (25.3)	5 (6.3)	6 (7.6)	10 (12.7)	10 (12.7)	1 (1.3)	11 (13.9)	79 (100.0)
	小 計	45 (19.0)	96 (40.5)	10 (4.2)	15 (6.3)	17 (7.2)	25 (10.5)	3 (1.3)	26 (11.0)	237 (100.0)
計 (熊本大学分を除く)		1,352 (16.3)	1,543 (18.6)	559 (6.7)	1,423 (17.2)	362 (4.4)	1,075 (13.0)	883 (10.7)	1,088 (13.1)	8,285 (100.0)

大学名	科 目 名	農 林 漁 業	事務・ 技術係	労務係	医師・ 弁護士 等	教育職・ 研究職	自営業	主 婦	学 生	無 職	不 明	計
熊本大学	台所の科学	58 (9.4)	86 (14.0)	0 (0.0)	4 (0.6)	18 (2.9)	23 (3.7)	316 (51.3)	1 (0.2)	98 (15.9)	12 (1.9)	616 (100.0)
	くらしの中の法	21 (3.7)	151 (26.5)	3 (0.5)	11 (1.9)	36 (6.3)	18 (3.2)	181 (31.8)	3 (0.5)	118 (20.8)	27 (4.8)	569 (100.0)
	計	79 (6.7)	237 (20.0)	3 (0.2)	15 (1.3)	54 (4.6)	41 (3.5)	497 (41.9)	4 (0.3)	216 (18.2)	39 (3.3)	1,185 (100.0)

表5-3 受講生の学歴

大学名	科 目 名	小 学 校 卒	中 学 校 旧制高小 卒	高 校 旧制中学 卒	短 大 卒	大 学 旧制高専 卒	大 学・高専 在 学 中	そ の 他	計
北海道大学	文化としての北 —北海道の「地方性」を問う—	0 (0.0)	19 (4.6)	177 (43.0)	60 (14.5)	131 (31.8)	9 (2.2)	16 (3.9)	412 (100.0)
	中国の古典を読む	1 (0.2)	24 (4.9)	203 (41.4)	91 (18.5)	150 (30.6)	10 (2.0)	12 (2.4)	491 (100.0)
	小 計	1 (0.1)	43 (4.8)	380 (42.1)	151 (16.7)	281 (31.1)	19 (2.1)	28 (3.1)	903 (100.0)
東北大学	結晶：その生い立ちと個性 —生物から無生物まで—	1 (0.9)	7 (6.5)	37 (34.3)	9 (8.3)	48 (44.4)	2 (1.9)	4 (3.7)	108 (100.0)
	経済大国日本の虚像と実像	1 (0.5)	13 (5.9)	77 (35.0)	19 (8.6)	99 (45.0)	6 (2.7)	5 (2.3)	220 (100.0)
	小 計	2 (0.6)	20 (6.1)	114 (34.8)	28 (8.5)	147 (44.8)	8 (2.4)	9 (2.8)	328 (100.0)
新潟大学	変動する地球 —日本列島の成り立ちとその背景—	0 (0.0)	22 (8.3)	96 (36.1)	26 (9.8)	107 (40.2)	6 (2.3)	9 (3.3)	266 (100.0)
	現代青年のライフスタイル	0 (0.0)	5 (3.6)	45 (32.4)	28 (20.1)	52 (37.4)	2 (1.4)	7 (5.1)	139 (100.0)
	小 計	0 (0.0)	27 (6.7)	141 (34.8)	54 (13.3)	159 (39.2)	8 (2.0)	16 (4.0)	405 (100.0)
金沢大学	大地と人間 —土木工学のロマン—	0 (0.0)	1 (1.7)	12 (20.0)	6 (10.0)	40 (66.6)	1 (1.7)	0 (0.0)	60 (100.0)
	北陸の風土	0 (0.0)	1 (3.6)	6 (21.4)	1 (3.6)	18 (64.3)	0 (0.0)	2 (7.1)	28 (100.0)
	小 計	0 (0.0)	2 (2.3)	18 (20.5)	7 (8.0)	58 (65.8)	1 (1.1)	2 (2.3)	88 (100.0)
名古屋大学	ミクロの科学と人間生活	0 (0.0)	11 (5.2)	69 (32.6)	27 (12.7)	88 (41.5)	14 (6.6)	3 (1.4)	212 (100.0)
	転換期の教育を考える。	0 (0.0)	12 (6.1)	64 (32.3)	32 (16.2)	79 (39.9)	11 (5.6)	0 (0.0)	198 (100.0)
	小 計	0 (0.0)	23 (5.6)	133 (32.4)	59 (14.4)	167 (40.7)	25 (6.1)	3 (0.7)	410 (100.0)
大阪大学	自然のしくみ —化学の眼—	1 (0.1)	12 (1.7)	145 (20.7)	52 (7.5)	418 (59.7)	25 (3.6)	47 (6.7)	700 (100.0)
	日本研究の先達	1 (0.2)	11 (2.4)	107 (23.4)	59 (12.9)	232 (50.7)	19 (4.1)	29 (6.3)	458 (100.0)
	小 計	2 (0.2)	23 (2.0)	252 (21.7)	111 (9.6)	650 (56.1)	44 (3.8)	76 (6.6)	1,158 (100.0)
広島大学	日本の建築空間	0 (0.0)	3 (1.7)	49 (28.1)	25 (14.4)	84 (48.3)	8 (4.6)	5 (2.9)	174 (100.0)
	性を考える	0 (0.0)	2 (1.1)	49 (27.7)	56 (31.6)	62 (35.0)	1 (0.6)	7 (4.0)	177 (100.0)
	小 計	0 (0.0)	5 (1.4)	98 (27.9)	81 (23.1)	146 (41.6)	9 (2.6)	12 (3.4)	351 (100.0)
熊本大学	台所の科学	59 (9.6)		316 (51.3)	84 (13.6)	87 (14.1)	9 (1.5)	61 (9.9)	616 (100.0)
	くらしの中の法	41 (7.2)		252 (44.3)	64 (11.2)	122 (21.4)	9 (1.6)	81 (14.3)	569 (100.0)
	小 計	100 (8.5)		568 (47.9)	148 (12.5)	209 (17.6)	18 (1.5)	142 (12.0)	1,185 (100.0)
信州大学	農業新戦略 —夢のある明日の農林業をめざして—	7 (0.2)	140 (4.7)	1,110 (37.0)	251 (8.4)	586 (19.5)	257 (8.6)	650 (21.6)	3,001 (100.0)
	近代信州の女性たち —歴史・文学・芸術にさぐる—	1 (0.2)	14 (2.6)	263 (49.3)	123 (23.1)	81 (15.2)	6 (1.1)	45 (8.5)	533 (100.0)
	小 計	8 (0.2)	154 (4.4)	1,373 (38.9)	374 (10.6)	667 (18.9)	263 (7.5)	695 (19.7)	3,534 (100.0)
高知医科大学 (四国地区)	健やかな老後をめざして —高齢化社会への対応—	3 (0.3)	86 (9.9)	429 (49.3)	121 (13.9)	166 (19.1)	9 (1.0)	57 (6.5)	871 (100.0)
琉球大学 (沖縄地区)	沖縄の医療と保健	0 (0.0)	1 (0.6)	43 (27.2)	38 (24.1)	33 (20.9)	10 (6.3)	33 (20.9)	158 (100.0)
	沖縄の戦後史	0 (0.0)	0 (0.0)	27 (34.2)	16 (20.3)	21 (26.6)	11 (13.9)	4 (5.1)	79 (100.0)
	小 計	0 (0.0)	1 (0.4)	70 (29.5)	54 (22.8)	54 (22.8)	21 (8.9)	37 (15.6)	237 (100.0)
計 (熊本大学分を除く)		16 (0.2)	384 (4.6)	3,008 (36.3)	1,040 (12.6)	2,495 (30.1)	407 (4.9)	935 (11.3)	8,285 (100.0)
計		500 (5.3)		3,576 (37.8)	1,188 (12.5)	2,704 (28.5)	425 (4.5)	1,077 (11.4)	9,470 (100.0)

＜資 料＞

- （資料１） 放送利用の大学公開講座に関する実施要項
- （資料２） 昭和６２年度放送利用の大学公開講座の放送番組及び告知番組の制作及び放送に関する実施細目
- （資料３） 放送利用の大学公開講座放送番組の複製物の相互利用に関する実施要項
- （資料４） 放送利用の大学公開講座の実施大学及び科目の推移等
- （資料５） 昭和６２年度放送利用の大学公開講座関係の会議開催状況
（放送教育開発センター開催分）

(資料 1)

放送利用の大学公開講座に関する実施要項

昭和 5 8 年 5 月 1 2 日放送教育開発センター所長裁定

昭和 5 9 年 4 月 1 0 日一部改正

昭和 6 0 年 6 月 1 4 日一部改正

昭和 6 1 年 6 月 2 6 日一部改正

昭和 6 2 年 7 月 1 7 日一部改正

(目 的)

- 1 この事業は、放送教育開発センター（以下「センター」という。）が大学及び番組制作放送機関（以下「放送局」という。）と共同して、放送を利用して行う大学教育の内容・方法等の研究開発、大学教育の開放の促進及び大学における教育方法の改善に資することを目的とする。

(研究開発課題)

- 2 センターは、「放送利用の大学公開講座」（以下「放送公開講座」という。）の実施を通して、次に掲げる課題の研究開発を行う。

- (1) 放送利用による大学教育の研究開発

- (ア) 適切な放送科目の選定

- (イ) 放送番組の制作手法

- (ウ) 印刷教材の作成

- (エ) 学習指導と学習評価

- (2) 大学教育の開放の促進

- (ア) 大学教育の放送利用による生涯教育の促進

- (イ) 大学教育の地域社会への開放

- (3) 大学における教育方法の改善

- (ア) 大学教育におけるマルチメディア教材の開発

- (イ) 放送及び放送番組の活用による教授・学習過程の試行的研究

- (ウ) 放送公開講座の大学への活用の研究

(実施方法)

- 3 センターは、次に掲げる大学（以下「実施大学」という。）に放送公開講座の実施を依頼し、放送番組の制作及び放送は、財団法人民間放送教育協会（以下「民教協」という。）に委託する。

実 施 大 学	放送公開講座数	
	テレビ科目	ラジオ科目
北海道大学	1	1
東北大学	1	1
新潟大学	1	1
金沢大学	1	1
信州大学	1	1
名古屋大学	1	1
大阪大学	1	1
広島大学	1	1
高知医科大学（四国地区）	1	—
熊本大学	1	1
琉球大学（沖縄地区）	1	1

（注） 1. 四国地区の放送公開講座については、徳島大学、鳴門教育大学、香川大学、香川医科大学、愛媛大学、高知大学、高知医科大学が共同して、企画、実施するものとする。

なお、昭和62年度は、高知医科大学が中心となって、企画、実施することとし、放送は、徳島、香川、愛媛、高知の四県で行うものとする。

2. 沖縄地区の放送公開講座については、琉球大学、沖縄大学、沖縄国際大学が共同して、企画、実施するものとする。

（授業への活用）

4 複数の大学が共同して、企画、実施する放送公開講座にあっては、大学が相互に授業への活用を図ること等により、大学における教育方法の改善に資するための調査研究を実施するものとする。

（放送公開講座企画連絡協議会）

5 センターは、放送公開講座の企画、実施及び調査研究の基本的事項に関し、実施大学及び民教協と協議するため、放送公開講座企画連絡協議会を開催する。

（放送公開講座研究会）

6 放送公開講座に関する共同研究として、次の事項について協議するため、センターに放送公開講座研究会を置く。

- (1) 調査研究事項の策定
- (2) 教育内容、方法の研究

- (3) 放送番組制作に関する調査研究
- (4) 放送用印刷教材、放送教材の研究
- (5) 学習指導方法の研究
- (6) 研究報告書の作成

(実施大学における組織)

- 7 当該大学の行う放送公開講座の企画、実施及びその調査研究に関し、具体的事項を協議するため、実施大学に必要な組織を置く。

(放送公開講座の構成)

- 8 放送公開講座は、放送番組、放送用印刷教材(以下「テキスト」という。)及び学習指導により実施する。

(放送番組)

- 9 放送番組1科目の放送回数は、原則として、13回(1回の放送時間は45分)とする。

(主任講師)

- 10 各放送科目に主任講師を置き、主任講師は、放送科目の構成、テキスト作成及び学習指導の実施の総括を行う。

(テキストの作成配布)

- 11 テキストは、放送番組を視聴して学習する際に講義内容を深く理解し、学習効果を高め、かつ、関連する学問領域の学習に資することを目的として、実施大学において作成する。
- 12 テキストは、受講生のみならず一般視聴者にも容易に利用できるよう十分に配慮する。

(受講生募集)

- 13 放送公開講座の効果を高めるとともに、2に定める研究開発を行うため受講生を募集する。
- 14 受講生の募集に関する事項は、実施大学において定める。

(学習指導)

- 15 学習指導は、放送公開講座の内容をより深く理解させ、学習意欲を高めるために通信指導及びスクーリングにより実施する。

(学習評価)

- 16 実施大学は、必要に応じ放送公開講座の学習成果を評価するための調査研究を実施する。

(実施報告書の作成)

- 17 放送公開講座研究会は、毎年、実施大学及び民教協からの実施状況及び調査研究等の報告に基づき、放送公開講座にかかる実施報告書を作成する。

(放送公開講座シンポジウムの開催)

- 18 センターは、放送公開講座の向上を図るため、毎年、放送公開講座担当の講師、番組制作者、センター教職員及びその他の関係者によるシンポジウムを民教協の協力を得て開催し、その結果の報告書を作成する。

(経 費)

19 放送公開講座の実施に要する経費は、予算の範囲内で次によりセンターが負担する。

(1) 実施大学における諸会議の開催、受講生募集、テキストの作成及び学習指導等に要する経費

(2) 放送局における放送番組の制作、放送及び放送公開講座の告知等に要する経費

(庶 務)

20 この放送公開講座に関する庶務は、管理部総務課において処理する。

(そ の 他)

21 この要項に定めるほか、必要な事項は別に定める。

附 則

1 この要項は、昭和58年5月12日から実施する。

2 この要項の実施に伴い、「放送利用の大学公開講座に関する共同研究開発事業の暫定実施要綱」
(昭和54年5月14日放送教育開発センター所長裁定)は廃止する。

附 則

この要項は、昭和59年4月10日から実施する。

附 則

この要項は、昭和60年6月14日から実施する。

附 則

この要項は、昭和61年6月26日から実施する。

附 則

この要項は、昭和62年7月17日から実施する。

(資料 2)

昭和 6 2 年度放送利用の大学公開講座の放送番組
及び告知番組の制作及び放送に関する実施細目

昭和 6 2 年 8 月 1 0 日

放送教育開発センター所長裁定

(目 的)

- 1 この実施細目は、放送利用の大学公開講座（以下「放送公開講座」という。）の放送番組及び告知番組の制作及び放送に関して定めるものとする。

(放送番組の制作及び放送)

- 2 財団法人民間放送教育協会（以下「民教協」という。）は、別表の「昭和 6 2 年度放送利用の大学公開講座の放送番組の制作及び放送科目等一覧」に基づき、放送教育開発センター（以下「センター」という。）の指示により、放送番組の制作及び放送を行うものとする。

(告知番組の制作及び放送)

- 3 民教協は、センターの指示により、受講生募集用及び放送番組周知用の告知番組を制作し、センターの指定する期間に放送するものとする。
- 4 告知番組は、番組制作放送機関ごとに、テレビ科目については 3 0 秒のものを 1 5 回、ラジオ科目については 2 0 秒のものを 2 0 回、それぞれ放送するものとする。

(テープ等の納入)

- 5 民教協は、放送番組ごとに下記の物件を、(1)及び(2)のそれぞれについて、センターに全実施大学分を、放送公開講座の実施大学に当該大学分を、納入するものとする。

(1) テレビ科目、ラジオ科目ともに、放送番組を収録した簡易テープ 各 1 本

(2) テレビ科目、ラジオ科目ともに、放送番組の制作に使用した台本 各 5 部

- 6 前記 5 の物件は、各回の放送番組の放送終了後直ちに納入するものとする。

(そ の 他)

- 7 この細目に定めるもののほか、必要なものはセンター所長が別に定める。

別 表

昭和 6 2 年度放送利用の大学公開講座の放送番組の制作及び
放送科目等一覧

1. テレビ科目

(一般分)

実施大学	科 目	主任講師	番組制作 放送機関	放送 曜日	放 送 時 間	放送期間	備 考
北 海 道 大 学	文化としての北 ー北海道の「地方性」 を問うー	本田錦一郎	北海道放送	日	23:40 ～ 0:25	62.10. 4 ～ 62.12.27	
東北大学	結晶：その生いたちと 個性 ー生物から無生物までー	砂川 一郎	東 北 放 送	土	7:00 ～ 7:45	62.10. 3 ～ 62.12.26	
新潟大学	変動する地球 ー日本列島の成り立ち とその背景ー	藤田 至則	新 潟 放 送	土	7:00 ～ 7:45	62.10. 3 ～ 62.12.26	
金沢大学	大地と人間 ー土木工学のロマンー	小堀 為雄	北 陸 放 送	土	5:45 ～ 6:30	62.10. 3 ～ 62.12.26	
名 古 屋 大 学	ミクロの科学と人間生 活	森島 昭夫	名古屋 テレビ放送	土	7:00 ～ 7:45	62.10. 3 ～ 62.12.26	
大阪大学	自然のしくみ ー化学の眼ー	菅 宏	毎 日 放 送	日	5:45 ～ 6:30	62.10. 4 ～ 62.12.27	
広島大学	日本の建築空間	鈴木 充	中 国 放 送	土	7:00 ～ 7:45	62.10. 3 ～ 62.12.26	
熊本大学	台所の科学	有富 正和	熊 本 放 送	金	9:30 ～ 10:15	62. 9. 4 ～ 62.11.27	

(大学群分)

実施大学	科 目	主任講師	番組制作 放送機関	放送 曜日	放 送 時 間	放送期間	備 考
信州大学	農業新戦略 －夢のある明日の農林 業をめざして－	菅原 聡 細野 明義	信 越 放 送	土	10:00 ～ 10:45	62.10. 3 ～ 62.12.26	
高知医科 大 学 (四国地区)	健やかな老後をめざし て －高齢化社会への対応－	小澤 利男 池田 久男 山本 博司 大原 啓志	高 知 放 送	土	7:00 ～ 7:45	62.10. 3 ～ 62.12.26	
			南 海 放 送	土	10:00 ～ 10:45	62.10. 3 ～ 62.12.26	
			西日本放送	日	6:00 ～ 6:45	62.10. 4 ～ 62.12.27	
			四 国 放 送	土	6:00 ～ 6:45	62.10. 3 ～ 62.12.26	
琉球大学 (沖縄地区)	沖縄の医療と保健	平山 清武	沖縄テレビ 放送	土	6:15 ～ 7:00	62.10. 3 ～ 62.12.26	

2. ラジオ科目

(一般分)

実施大学	科 目	主任講師	番組制作 放送機関	放送 曜日	放 送 時 間	放送期間	備 考
北 海 道 大 学	中国の古典を読む	丸尾 常喜	北海道放送	日	20:00 ～ 20:45	62.10.18 ～ 63. 1.10	
東北大学	経済大国日本の虚像と 実像	吉田震太郎	東 北 放 送	日	19:00 ～ 19:45	62.10.18 ～ 62.12.20	
				土	20:00 ～ 20:45	62.12. 5 ～ 62.12.19	

実施大学	科 目	主任講師	番組制作 放送機関	放送 曜日	放 送 時 間	放送期間	備 考
新潟大学	現代青年のライフスタイル	石田 幸平	新 潟 放 送	日	21:00 ～ 21:45	62.10.18 ～ 63. 1.10	
金沢大学	北陸の風土	金崎 肇	北 陸 放 送	土	21:00 ～ 21:45	62.10.17 [※] ～ 63. 1.16	※ 63.1.2 は休み
名古屋大学	転換期の教育を考える	堀内 守	東海ラジオ 放 送	土	6:00 ～ 6:45	62.10. 3 ～ 62.12.26	
大阪大学	日本研究の先達	子安 宣邦	近 畿 放 送	日	21:00 ～ 21:45	62.10.18 ～ 63. 1.10	
広島大学	性を考える	若尾 裕	中 国 放 送	日	20:00 ～ 20:45	62.10.25 [※] ～ 63. 1.24	※ 63.1.3 は休み
熊本大学	くらしの中の法	清正 寛	熊 本 放 送	日	21:45 ～ 22:30	62.10.18 [※] ～ 63. 1.17	※ 63.1.3 は休み

(大学群分)

信州大学	近代信州の女性たち －歴史・文学・芸術に さぐる－	上條 宏之	信 越 放 送	日	19:15 ～ 20:00	62.12. 6 [※] ～ 63. 3. 6	※ 63.1.3 は休み
琉球大学 (沖縄地区)	沖縄の戦後史	大田 昌秀	琉 球 放 送	日	21:15 ～ 22:00	62.10. 4 ～ 63.12.27	

(資料 3)

放送利用の大学公開講座放送番組の
複製物の相互利用に関する実施要項

昭和61年6月26日

放送教育開発センター所長裁定

(趣 旨)

- 1 この要項は、放送教育開発センター（以下「センター」という。）が所有する放送利用の大学公開講座放送番組の複製物（以下「番組複製物」という。）を、放送利用の大学公開講座実施大学（以下「実施大学」という。）の間に相互に利用することに関して必要な事項を定める。

(利用の目的及び範囲)

- 2 センター所長は、学生の学習や放送を利用して行う大学教育の内容、方法等の研究及び開発に利用することを目的として、各実施大学の長に、当該実施大学以外の番組複製物の貸出を無償で行うものとする。
- 3 番組複製物の貸出を受けた実施大学の長は、当該実施大学において、必要に応じ、前項の利用の目的のために、当該実施大学の教職員及び学生等の視聴の用に供するものとする。

(貸出の方法)

- 4 番組複製物の貸出を希望する実施大学の長は、利用の目的、方法等を記載した貸出申請書（別紙様式1）を、貸出を希望する日の30日前までに、センター所長あてに提出するものとする。
- 5 センター所長は、その貸出について適当と認めたときには、貸出許可書（別紙様式2）を交付し、貸出を行うものとする。
- 6 番組複製物の貸出の期間は、原則として1年間とする。ただし、この期間を越えて引き続き貸出を希望するときには、改めて貸出申請の手続きをとり、貸出の期間を更新することができるものとする。
- 7 番組複製物は、貸出期間中であっても、センター所長が必要と認めた場合には、返却を求めることができる。
- 8 番組複製物の貸出を受けた実施大学の長は、貸出期間の終了後ただちに、番組複製物に、その利用の状況を記載した書類（別紙様式3）を添付の上、センター所長に返却するものとする。

(目的及び範囲を越えた利用の禁止)

- 9 貸出を受けた番組複製物を、第2項及び第3項に定める利用の目的及び範囲を越えて利用することは一切禁止する。

(複製及び転貸の禁止)

- 10 貸出を受けた番組複製物の一部又は全部の複製及び転貸は一切禁止する。

(利用上の責任)

- 11 前2項の規定に違反若しくは貸出を受けた番組複製物を亡失したことにより、著作権法等、法律上の問題を生じたときは、当該番組複製物の貸出を受けた実施大学の長がすべてその責を負うものとする。

(亡失等の通知及び弁償)

- 12 番組複製物の貸出を受けた実施大学の長は、当該番組複製物を、善良な管理者の注意義務をもって取扱うこととし、亡失若しくは損傷したときは、ただちにその旨をセンター所長に通知するものとする。

- 13 前項の亡失若しくは損傷が故意又は重大な過失による場合は、当該番組複製物の貸出を受けた実施大学の長はその損害を弁償するものとする。

(庶務)

- 14 この番組複製物の貸出に関する庶務は、管理部情報資料室で処理する。

(その他)

- 15 この要項の実施に関し、必要な事項はセンター所長が別に定める。

附 則

- 1 この要項は、昭和60年度以降に制作及び放送された放送利用の大学公開講座放送番組の複製物について適用する。
- 2 この要項は、昭和61年6月26日から実施する。

貸 出 申 請 書

昭和 年 月 日

放送教育開発センター所長 殿

機関名

所在地

機関長・職・氏名

職印

下記により、放送利用の大学公開講座放送番組の複製物（以下「番組複製物」という。）の貸出を受けたいので申請します。

なお、この番組複製物の利用に当たっては、「放送利用の大学公開講座放送番組の複製物の相互利用に関する実施要項」（昭和61年6月26日放送教育開発センター所長裁定）及び貴センターの指示する事項を厳守します。

記

1. 貸出を希望する番組複製物の内容

- ① 公開講座実施大学名
- ② 科目名（実施年度・TV、Rの別）
- ③ テーマ（第 回分）

2. 貸出を希望する期間 昭和 年 月 日 ～ 昭和 年 月 日

3. 利用の目的

4. 利用の方法

（注） 利用の目的及び方法については、具体的に記入してください。

貸 出 許 可 書

昭和 年 月 日

殿

放送教育開発センター所長

昭和 年 月 日付けで申請のありました、放送利用の大学公開講座放送番組の複製物（以下「番組複製物」という。）の貸出については、下記により許可します。

記

1. 番組複製物の名称

2. 番組複製物の貸出期間

昭和 年 月 日 ～ 昭和 年 月 日

3. 許可条件

- ① 番組複製物の利用は、「放送利用の大学公開講座放送番組の複製物の相互利用に関する実施要項」（昭和61年6月26日放送教育開発センター所長裁定）を厳守の上、行うこと。
- ② その他番組複製物の利用について、放送教育開発センターが指示する事項を厳守すること。

放送利用の大学公開講座放送番組の複製物
(番組複製物)の利用の状況

1. 機 関 名

2. 番組複製物の設置場所

3. 利用の状況

番組複製物		利用者(教職員、 学生等の別)	場 所	目 的 ・ 方 法	利用 回数	備 考
科 目 名	テ ー マ					

「放送利用の大学公開講座放送番組の複製物の相互利用に関する実施要項」（昭和61年6月26日放送教育開発センター所長裁定）の第1項の『放送利用の大学公開講座実施大学』の範囲について

昭和61年6月26日

放送教育開発センター所長

「放送利用の大学公開講座放送番組の複製物の相互利用に関する実施要項」（昭和61年6月26日放送教育開発センター所長裁定）の第1項の『放送利用の大学公開講座実施大学』には、「放送利用の大学公開講座に関する実施要項」（昭和58年5月12日放送教育開発センター所長裁定）の第3項の『実施大学』のほか、これからの大学と共同して、放送利用の大学公開講座を企画、実施する大学を含むものとする。

(資料 4)

1. 放送利用の大学公開講座実施大学及び科目の推移

年 度	53年度	54年度	55年度	56年度	57年度	58年度	59年度	60年度	61年度	62年度
実施大学数	3	3	5	5	5	6	7	10	11	11
テレビ講座数	4	5	6	7	7	8	8	10	11	11
ラジオ講座数	4	5	6	7	7	6	6	7	8	10
実施開始 大 学 名	東 北 金 沢 大 学	北 沢 大 学	大 阪 大 学			北 海 道 大 学	新 潟 大 学	名古屋 信 州 大 学 (沖縄 地区)	高 知 大 学 (四国 地区)	高知医 科 大 学 (四国 地区)

2. 昭和61年度までの放送利用の大学公開講座の実施状況

(㊦：テレビ科目、㊦：ラジオ科目)

年 度	実 施 大 学	科 目 名	主 任 講 師
53	東 北 大 学	㊦ 日本のなかの世界文化 ㊦ 食糧：その現状と未来 ㊦ 家族関係と法律	小 田 基 金 田 尚 加 藤 永 志 一
	金 沢 大 学	㊦ 環境：その将来への対応 ㊦ 性格の科学	木 羽 敏 泰 田 中 富 士 夫
	広 島 大 学	㊦ 日本国憲法 ㊦ 生物の進化を考える ㊦ 方言と文化	畑 博 行 片 島 亮 神 鳥 武 彦
54	東 北 大 学	㊦ 地震災害と市民生活 ㊦ がん制圧をめざして ㊦ 日本近代文学の形成と外国文学 ㊦ 青 年 期	佐々木 嘉 彦 佐 藤 春 郎 菊 田 茂 男 宮 川 知 彰
	金 沢 大 学	㊦ がんの知識 ㊦ 現代と子ども ㊦ ロック音楽	服 部 絢 一 小 松 周 吉 三 井 徹
	広 島 大 学	㊦ スポーツと生活 ㊦ 心の健康 ㊦ 人生とは何か	川 村 毅 更 井 啓 介 河 野 真

55	東 北 大 学	㊦ 発掘された古代史 ㊦ 生活の科学 ㊦ おくのほそ道	芹 大 原 沢 谷 田 長 茂 隆 介 盛 吉
	金 沢 大 学	㊦ 海の科学 ㊦ 高齢化社会 ㊦ 心理学の基礎	小 岩 多 西 野 田 健 耕 治 二 三 夫
	大 阪 大 学	㊦ 病気の原因をさぐる ㊦ 大阪の学問	松 梅 原 溪 謙 一 昇
	広 島 大 学	㊦ 自然災害と生活 ㊦ たくましい子どもを育てる	今 岸 井 本 日 出 夫 幸 次 郎
	熊 本 大 学	㊦ 生活の中の医療 ㊦ 文化と宗教	徳 近 臣 沢 晴 比 古 龍 雄
56	東 北 大 学	㊦ 生命をひもとく ㊦ 古代史の世界 ㊦ 「平家物語」の世界 ㊦ 成 人 病	小 高 鈴 藤 西 橋 木 咲 和 富 則 彦 雄 郎 暹
	金 沢 大 学	㊦ 加賀の伝統工芸 ㊦ 現代日本文学の展開 ㊦ 現代の社会病理	杉 森 八 田 木 忠 英 彰 一 正
	大 阪 大 学	㊦ 暮らしと機械の頭脳 ㊦ 生 き る	寺 麻 田 生 浩 詔 誠
	広 島 大 学	㊦ 瀬戸内の歴史と文化 ㊦ 交通と生活 ㊦ 平和を研究する	松 佐 々 果 岡 木 野 久 和 人 夫 鳳
	熊 本 大 学	㊦ 現代の工学 ㊦ 家庭と教育	堀 甲 内 斐 清 直 治 義
57	東 北 大 学	㊦ 数学への招待 ㊦ 宇宙を探る ㊦ 王朝の歌と人 ㊦ 少 年 期	土 高 片 宮 倉 窪 野 川 啓 達 知 保 弥 郎 彰
	金 沢 大 学	㊦ 白山と生きものたち ㊦ 学校をみつめる ㊦ 現代家族法講話	矢 内 深 島 田 谷 孝 松 昭 糺 男
	大 阪 大 学	㊦ 明日のエネルギーを求めて ㊦ 現代の暮らしと契約	鈴 江 木 口 順 胖 一
	広 島 大 学	㊦ 瀬戸内の水産物と食生活 ㊦ 感性を育てる ㊦ 酒の百科	片 若 佐 々 木 島 尾 木 和 亮 裕 夫
	熊 本 大 学	㊦ 熊本の自然 ㊦ 近代熊本の思想と文化	村 首 田 藤 正 基 文 登

58	北海道大学	㊦ 北海道の資源 ㊧ 現代米小説講読	南井山高 部上田久 泰定眞 悟男市一
	東北大学	㊦ みちのくの村むら ㊦ 新しい物質 ㊧ 万葉集	竹斎扇 内藤畑 利一忠 美夫雄
	金沢大学	㊦ 医学的リハビリテーション ㊧ 日本語を考える	立島 野田 勝昌 彦彦
	大阪大学	㊦ タンパク質 ㊧ 日本経済の見方	泉倉建 橋元 美正 治潔弘
	広島大学	㊦ 家庭と医療 ㊦ 「心」を育てる ㊧ 文学にあらわれた女性像	今黒嶋 井田屋 日耕節 夫誠子
	熊本大学	㊦ 薬の科学 ㊧ 熊本の文学	久保田 久首 幸基 穂澄
59	北海道大学	㊦ からだの科学 ㊧ 北海道文学の系譜	石広神 川重谷 忠 純力孝
	東北大学	㊦ よりよいくすりを求めて ㊦ みちのくの仏像と信仰 ㊧ 幼年期	野上寺 副原田 重昭 男一晃
	新潟大学	㊦ 文化を考える	上田 将
	金沢大学	㊦ 暮らしの中の先端技術 ㊧ 経済をよむ目	安玉 井井 武龍 司象
	大阪大学	㊦ わたしたちの病気と微生物 ㊧ ことばの世界	中藤 林田 敏 夫実
	広島大学	㊦ 天然から得られる薬の話 ㊧ 王朝の女流文学	山稲 崎賀 和敬 男二
60	熊本大学	㊦ “すまい” - マイホームの科学 - ㊧ 熊本、黎明期の人びと	北花 野立 三 隆郎
	北海道大学	㊦ 低温とくらし ㊧ 法律夜話 - 法のことわざと民法 -	小福 林永 禎有 作利
	東北大学	㊦ 日本史の中の宮城 ㊧ 「方丈記」「徒然草」の世界	渡鈴 辺木 信則 夫郎
	新潟大学	㊦ にいがた 自然と環境 ㊧ 王朝女流日記の世界	茅宮 原崎 一莊 也平

60	金 沢 大 学	① 健康・体力づくりを考える ② 古典の再発見-いま・生き方の糧として-	橋 羽 裕 規 男 島 田 昌 彦
	※ 信 州 大 学	① 電子工学-エレクトロニクス入門-	丹 野 頼 元
	名 古 屋 大 学	① 宇宙・航空の時代を拓く	早 川 幸 男 保 原 井 充 藤 井 芳 隆 松 井 芳 郎
	大 阪 大 学	① レーザーと未来社会 -先端技術へのインパクト- ② 日本を考える	山 中 千 代 衛 黒 川 洋 一
	広 島 大 学	① 生命の不思議を探る ② 子どもの心の成長とその歪み	重 中 義 信 鑑 幹 八 郎
	熊 本 大 学	① 水と人間 ② 旅の文化	今 江 正 知 荒 木 尚
	※ 琉 球 大 学 (沖縄地区)	① 沖縄の農業	比 嘉 照 夫
61	北 海 道 大 学	① 情報化社会に生きる-経済とくらし- ② 近代ロシアの歴史と文学	荒 又 重 雄 藤 家 壮 一
	東 北 大 学	① 人と国家と社会と -宮城経済近代化のダイナミクス- ② 現代人と食	嶋 田 隆 木 村 修 一
	新 潟 大 学	① からだの部分を取り換える -生命の維持と機能回復を求めて- ② 日本の古代音楽	田 島 達 也 荻 美 津 夫
	金 沢 大 学	① 異なる文化の交流と衝突 -文化人類学の視点から- ② 人間関係の心理学	鹿 野 勝 彦 多 田 治 夫
	※ 信 州 大 学	① 生物工学 -バイオテクノロジーの展開-	田 中 一 行 氏 原 暉 男 白 井 汪 芳
	名 古 屋 大 学	① 水 -人間とのかかわり- ② 健康づくりの科学	半 田 暢 彦 武 田 喬 男 高 木 不 折 梢 崎 彰 一 矢 部 京 之 助

61	大 阪 大 学	① 見る -先端科学技術の“目”- ② 私たちの生活の中での薬	須 三 田 浦 信 喜 英 温
	広 島 大 学	① 広島を経済を考える ② 家庭とは何であったか -19世紀の社会・人間・文化-	櫛 志 本 邨 晃 巧 佑
	※ 高 知 大 学 (四国地区)	① 海をさぐる -その開発へのアプローチ	八 上 畑 塚 森 千 幸 剛 秋 彦
	熊 本 大 学	① “実年”の健康 ② 熊本 -人とその時代-	森 工 野 藤 能 敬 昌 一
	※ 琉 球 大 学 (沖縄地区)	① 沖縄のサンゴ礁	西 平 守 孝

※印は、大学群分

(資料5)

昭和62年度放送利用の大学公開講座関係の
会議開催状況（放送教育開発センター開催分）

◇放送利用の大学公開講座企画連絡協議会

昭和62年度の企画連絡協議会は、実施大学、放送局を2グループに分け、日程を変えて開催した。2つの企画連絡協議会は、それぞれ各大学の主任講師（テレビ講座）及び事務担当者、各放送局のテレビ番組制作担当者、（財）民間放送教育協会の担当者、本センターの教官等関係者が出席し、①前年度実施のテレビ講座を視聴し、それを参考にテレビ講座番組の制作上の諸問題を話し合うとともに、②昭和62年度各放送局のテレビ番組制作・放送計画、③調査研究方針等について、それぞれの責任者及び担当者から報告、説明を行い、これを踏まえて質疑応答を行った。

1. 日 時 昭和62年7月2日(7月9日) 13:30~17:30
 7月3日(7月10日) 9:30~12:00
2. 場 所 放送教育開発センター
3. 議 題
 - (1) テレビ講座番組の制作上の諸問題(テレビ講座番組視聴・討議)について
 - (2) 昭和62年度のテレビ講座の概要及び番組制作・放送計画について
 - (3) 昭和62年度の調査研究方針について
 - (4) その他
4. 配付資料
 - (1) 昭和62年度放送利用の大学公開講座制作・放送科目等一覧
 - (2) 昭和61年度放送利用の大学公開講座テレビ講座番組視聴資料
 - (3) 昭和62年度放送利用の大学公開講座テレビ講座実施計画書
 - (4) 昭和62年度放送利用の大学公開講座調査研究方針(検討参考資料)
 - (5) 放送利用の大学公開講座に関する実施要項(案)

◇放送利用の大学公開講座研究会

各大学の実施責任者（または昭和62年度のラジオ講座の主任講師）、共同研究担当の教官及び事務担当者、各放送局のラジオ番組制作担当者、（財）民間放送教育協会の担当者、本センターの教官等関係者が出席し、①前年度実施のラジオ講座を聴取し、それを参考にラジオ講座番組の制作上の諸問題を話し合うとともに、②昭和62年度各放送局のラジオ番組制作・放送計画、③昭和61年度の調査研究結果（テレビ講座、ラジオ講座とも）等について、報告、説明を行い、これを踏ま

えて質疑応答を行った。

1. 日 時 昭和62年8月6日 10:00～18:00

2. 場 所 放送教育開発センター

3. 議 題

- (1) ラジオ講座番組の制作上の諸問題（ラジオ講座番組聴取・討議）について
- (2) 昭和62年度のラジオ講座の概要及び番組制作・放送計画について
- (3) 昭和61年度の調査研究結果（テレビ講座、ラジオ講座）について
- (4) その他

4. 配付資料

- (1) 昭和62年度放送利用の大学公開講座制作・放送科目等一覧
- (2) 昭和61年度放送利用の大学公開講座ラジオ講座番組聴取資料
- (3) 昭和62年度放送利用の大学公開講座ラジオ講座実施計画書
- (4) 昭和61年度放送利用の大学公開講座の受講生に対するアンケート調査結果（各大学共通分）
- (5) 昭和62年度放送利用の大学公開講座の受講生に対するアンケート調査事項（各大学共通分）
- (6) 昭和61年度放送利用の大学公開講座調査研究結果（各大学実施分）
- (7) 昭和62年度放送利用の大学公開講座調査研究事項及び学習指導計画（各大学実施分）